SDGs新聞	ブックオフグループホールディングス株式会社
海外で人々の「働く場所」をつくる	

SDGsラジオを読んでみよう！

日本の企業が、海外で人々の「働く場所」をつくる。
そんな取り組みを、本や洋服、おもちゃ、スポーツ用品などの買取・販売でお馴染みの「ブックオフ」は進めています。
ブックオフグループは、マレーシアやカザフスタンに海外店舗「Jalan Jalan Japan」（じゃらん・じゃらん・じゃぱん）を出店し、
日本の店舗で売れ残ってしまった商品を取り扱っています。このJalan Jalan Japanで働いている人は、マレーシア国内だけでなんと400名以上。
また、「従業員の満足がお客様の満足を生み出す」という考え方のもと、おいしい食事を一緒に食べたり、誕生日を祝ったりと、
「入社して良かった」と思ってもらえるようにさまざまな取り組みを行っています。
リユースでモノの命を延ばして、人々の働く場所もつくる。
人にも、環境にもうれしい、まさに、これからの時代に求められるビジネスの在り方ですよね。

SDGsラジオの内容を、もっと詳しく知ろう！

画像参照：マレーシアにオープンしたJJJの1号店（ブックオフ公式HPより）

みなさんが使わなくなったさまざまな「モノ」の買取・販売を通して、循環型社会の実現に貢献している「ブックオフ」では、年間に約4億点のモノを買い取っています。一方で販売点数は年間3億点未満と、国内だけではどうしても売れ残りが生じてしまいます。そこでブックオフは海外に目を向け、2016年にマレーシアにて海外チェーン店となるリユースショップ「Jalan Jalan Japan（以下「JJJ」）」の1号店をオープンしました。国内で売れ残ったモノを輸出し、ゴミにせずリユースすることで、たくさんのモノの命を延ばしています。

画像参照：食事を提供するミルトンホール
（ブックオフ公式HPより）

JJJは、現在マレーシアに11店舗、カザフスタンにも2店舗を出店するなど、海外での展開を加速させています。また、マレーシアにおいて400名以上の新たな雇用を生み出し、SDGｓの1つである「8. 働きがいも 経済成長も」に大きく貢献しています。しかし、マレーシアは日本ほど生活水準が高くなく、悪条件で働かされる人も少なくありません。そこでJJJでは、単に給料を支払って働かせるのではなく「ずっとJJJで働きたい」と思ってもらえるように努めています。例えば従業員の生活寮をつくって受け入れたり、食事に困っている従業員のために、倉庫に「ミルトンホール」というスペースをつくり、朝食や昼食を無料で提供するようにしました。また、日本のブックオフと同じようにキャリアパスプランを設けるなど、従業員に「責任感・やりがい」を感じてもらうためのさまざまな取り組みを続けています。

キーワード

循環型社会

資源を再利用・再生することで、資源のムダづかいと環境への負担を減らしていく社会のことです。

マレーシア

東南アジアにある面積約33万㎢（日本よりやや小さい）、人口約3,200万人の国。首都クアラルンプール。日本人に人気の高い旅行先のひとつです。

キャリアパス

仕事のスキルに応じて昇給・昇進できる制度のことです。

対象ゴール

みなさんにできること！

日本と海外のSDGsに対する課題の違いについて知り、なにができるか考えてみましょう。

おさらい

- ブックオフは海外にリユースショップを展開することで、モノの命を延ばしている。
- マレーシアで400名以上の新たな雇用を生み出している。
- 生活寮や食事の提供などで、従業員が働きやすい環境整備に努めている。

メモ

SDGsラジオ